

日本結核病学会北陸支部学会

—— 第80回総会演説抄録 ——

平成24年5月19・20日 於 金沢大学医学類G棟（金沢市）

（第69回日本呼吸器学会
第54回日本呼吸器内視鏡学会 と合同開催
第39回日本サルコイドーシス学会）

集会長 小川晴彦（石川県済生会金沢病院呼吸器内科）

—— 一般演題 ——

1. 治療開始6カ月後に腫瘤影を形成し初期悪化（paradoxical response）を生じた肺結核の1例 °岡崎彰仁・渡辺知志・谷まゆ子・山村健太・大倉徳幸・片山伸幸・笠原寿郎（金沢大附属病呼吸器内）丹保裕一（国民健康保険小松市民病呼吸器内）藤村政樹（NHO七尾病）
44歳男性。既往歴なし。2010年9月左上葉無気肺を指

摘され11月当院初診。喀痰・胃液TB-PCR陽性にて肺結核確定（学会分類bⅢ2）。喀痰3連続塗抹陰性，薬剤耐性なし。HREZ開始。2011年5月治療終了時の胸部CTで左S⁶に新たに腫瘤影出現。経気管支生検でLanghans細胞や類上皮細胞を含む乾酪性肉芽腫，培養陰性。無治療経過観察にて陰影縮小し改善。初期悪化は治療開始6カ月後にも起こりうる。